

# 原爆の学習

## <低学年>

1. 教材名 まちんと

2. 教材内容

すこし むかし  
ちいさな子が  
もうじき 三つになる子が  
広島に すんでいて  
昭和二十年八月六日の朝  
げんしばくだんに  
おうたげな  
ただ いっぱつの  
ばくだんだったけれど  
いっしゅんのうちに  
まちは もえあがり  
いっしゅんのうちに  
まちは くずれおち  
人も ほのおともえ  
いきのこった 人びとは  
やけただれて  
さまよった

黒い雨は  
そのうえに  
ふりそそぎ ふりそそぎ  
その子も  
くるしみながら ねかされて  
トマトを 口に いれてやると  
まちんと まちんと  
といって ほしがった  
ちょっとまってねえ  
トマトを さがしてくるからねえ  
その子のおかあさんは  
そういって さがしにでたけれど  
くずれ やけおちたまちに  
トマトはなかった  
たった ひとつでいいから  
トマトを・・・トマトを・・・

ようやく ひとつみつつけて  
もどったとき  
その子は もう死んでいた  
まちんと まちんとと  
いいながら  
死んでいったげな  
その子は 死んで  
鳥になったげな  
そうして いまがいまも  
まちんと まちんとと  
なきながら  
とんでいるのだと  
ほら そこに—  
いまも—

3. 授業案

(1) ねらい 小さな子をはじめとして、原爆で失った尊い命を思い、戦争や原爆は二度と繰り返してはならないことを考える。

(2) 展開例

学 習 内 容	留 意 点
1. 戦争や原爆について知っていることを出し合う。	・テレビや漫画で見たことも取り上げる。
2. 戦争や原爆についての話を聞く。	・子どもたちや教師の家族、近所の人で戦争を体験したことのある人の話をする。 ・戦争でひもじい思いをしていることがわかる子どもたちの写真や、原爆投下前と後の広島市産業奨励館の写真等を準備する。
3. 絵本「まちんと」の話を聞く。	・ゆっくり、行間を大切に、絵を見せながら読む。 ・まちんと（もうちっと）の意味をとらえる。
4. 感想を出し合う。	・たった1発の爆弾で、町も野原も川も全てが火の海に呑まれたことや、たくさんの尊い命が奪われたことをおさえる。
5. 振り返りを書く。	・この学習を通して感じたことや考えたことを中心に書く。

(3) 資料 ・ 絵本「まちんと」 (文・松谷みよ子 絵・司 修) 偕成社

## 原爆に関連した低学年向けの絵本リスト

書名	著者名	出版社	解説
ひろしまのピカ	丸木俊	小峰書店	原爆の凶に感激したおばあさんが語った被爆体験を元に作品化したもの。 7才のみいちゃんが主人公。
金魚がきえた	山本美次	汐文社	広島の日常と原爆投下後の非日常を明るい絵と不気味な墨絵調の絵の対比で描いている。 1年生くらいのみことちゃんが主人公。
あの夏の日	葉祥明	長崎市	長崎原爆の被爆の実相をわかりやすく子供たちに伝える絵本です。 平和学習の教材としてもぜひご利用ください。
まちんと	松谷みよこ	偕成社	8月6日の朝、原爆にきずついた女の子は、まちんとまちんとと、トマトをねだって死んだ。
おこりじぞう	山口勇子	金の星社	広島の方に、原子爆弾が落とされました。約14万人の人が亡くなり、町は跡形もなく焼け野原になりました。それから数年後の広島の方に、おこりじぞうと呼ばれる、おじぞうさんがたっていました。
ひろしまのエノキ	長崎源之助	童心社	"原爆をうけ、生きのこった一本のエノキ。そのエノキを守る子どもたちの姿を描く、平和の絵本。"
ピカドン	丸木俊	東邦出版 小峰書店	広島に原爆が落とされた日の朝から、数年間にわたり丸木夫妻は、人びとのこと、街の様子のことなどをスケッチしつづけました。
クロのいた夏	中沢啓二	汐文社	「はだしのゲン」で知られる中沢啓二さんが、被爆当時飼っていた子猫との体験をもとにした物語です。戦争の時代の中で、子猫の生命を守るために力を合わせる子どもたちと家族。その生命を一瞬にして奪い去った原爆……。生命の重さを子猫を通して強く訴えます。
わたしのヒロシマ	森本順子	金の星社	1945年8月6日。わたしのふるさとヒロシマは、またたくまに焼け野原となりました。あの原子爆弾のために。オーストラリアで作家活動を続ける著者が、平和への願いをこめて手がけた珠玉の絵本。
かあさんのうた	大野允子	ポプラ社	広島にばくだんがおとされた夜、くすのきはねもとのほうに、少女のうたう小さなこもりうたをききました。
はとよひろしまの空を	大川悦生	ポプラ社	原爆が落とされた直後の広島を、飼い主の少年をさがして必至にとぶ一羽のはとの姿を通して、平和への願いを訴える絵本。
ピカドンたけやぶ	はらみちお	岩崎書店	広島にピカドンが落とされて、見わたすかぎり焼け野原に。人びとは小さなたけやぶに逃げこんだのですが...平和の大切さを伝えます。
むかえじぞう	吉本直志郎	ポプラ社	1945年8月6日。広島に原爆がおちた日、何千、何万というお地蔵さまが海をわたって行くのを見た...。4歳から。
わたしがちいさかったときに	長田新 岩崎ちひろ	童心社	1945年8月6日、広島に落とされた一発の原子爆弾が、二十数万の命を、一瞬のうちにうばった。地獄のような火の海の中を、かろうじて生きのこった少年少女たち...。これは、その悲痛な、平和への訴えである。

もえたじゃがいも	入野忠芳	汐文社	
原爆の少女ちどり	山下まさと	汐文社	
とうちゃんの涙	下村仁一	汐文社	
ミヨちゃんの笛	白井史朗	汐文社	
ヒロクンとエンコウさん	四国五郎	汐文社	
絵本ヒロシマのおとうさん	高橋昭博	汐文社	
長崎を忘れない	渡辺千恵子	草土文化	
ながさきの子うま	大川悦生	新日本出版	
長崎のふしぎな女の子	大川悦生	ポプラ社	
ルミちゃんの赤いリボン	奥田貞子	ポプラ社	
ケイコちゃんごめんね	おくだ さえこ	ポプラ社	
アサガオ・1945年8月6日 ひろしま	むらはし こまち	らくだ出版	
げんさん	大野允子	あすなろ書房	
ぼく生きたかった	名越謙蔵	労働教育センター	
げんばくとハマユウの花	桜井信夫	ほるぷ出版	

\*解説については、その本自体についている解説や、販売用の解説からとったものです。同じ出来事を扱っていても、数字等が違う場合があります。

\*中には、低学年向けではないものも入っているかもしれませんし、内容的に問題のあるものもあるかもしれません。実践を通して、よいものをお知らせいただくと幸いです。